



《題字・森神紫陽》

お習字教室を始めました

第49号

平成20年冬発行
一部単価135円(非売品)

正定寺花園会広報

檀信徒数

直川地区：253戸

直川地区外：133戸

発行所

〒879-3104

大分県佐伯市直川大字
仁田原 寶林山正定寺内

TEL 0972(58)2190

FAX 0972(58)2192

隠 寮0972(58)2195

URL <http://www.saiki.tv/~shojoji>

e-mail shojoji@saiki.tv

住職 小原寿山

- 硬 筆…小学1年生～小学6年生まで
- 毛 筆…小学4年生～中学・高校生まで
- 筆あそび…大人(初心者・書道未経験者歓迎)
- ピアノ…小学1年生から

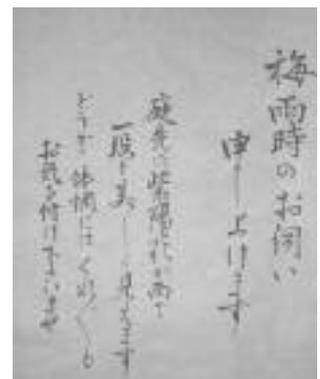
- * 曜日・時間など相談承ります。
- * お月謝(用品など実費頂きます)
- * 教室は仁田原細川内入りの園田塾

詳しくは

0972-58-2190 (正定寺)

0972-58-2310 (園田塾)

講師：小原みどり



〈家族みんなで読みましょう〉

正定寺の歴史探究 佐伯四国八十八ヶ所と正定寺末庵

◆弘法大師

正定寺の位牌堂東面（右）に安置されている仏像は「弘法大師空海上人座像」です。真言宗を開いた方ですが、「佐伯八十八霊場」が作られた時期に合わせて、大正五年（一九一六）に大師講信者により寄進されました。

当時は南北三間と東西三間の「不動堂（通称大師堂）」に安置されていました。佐伯四国五十六番札所として最近は遍路の参拝者も増えてきました。

空海は宝亀五年（七七四）六月十五日讃岐の国にお生まれになられました。幼名を「真魚」といいます。

出家された空海は三十一歳で唐に渡り、恵果和尚より「遍照金剛」の灌頂名を授かりました。

「南無大師遍照金剛」とお唱えする由来です。

歴代天皇の厚い帰依のもと、真言宗を広く広め、高野山金剛峰寺で修行を過ごされ、承和二年（八三五）三月二十一日に六十二歳で亡くなられました。

◆正定寺の末庵

正定寺の末庵記録は、江戸時代に幕府に提出された古記録に「正定寺末庵二十一ヶ庵、江戸官辺御尋有之二間三間書出」と記されています。

正定寺に保管されている末庵の記録は、250年前の宝暦年間に第十世真鏡和尚や170年前の天保年間に第十六世珍宗和尚が記したものなど数冊があり、新しいものではない36年前の明治5年当時の東西南北に置かれた四庵の住僧（庵主）略歴などがあります。

仁田原村・赤木村・上直見村・下直見村に正定寺の末庵があり、江戸時代には神社の数が七十一社・庵の数が三十一堂ありました。

現在は、神社十九社・庵二十九堂が現存しています。本寺は三ヶ寺あり、寶林山正定寺が二十堂を有し、他に「無量山専念寺（浄土真宗・大谷派）」が四堂「東暉山善正寺（浄土真宗・大谷派）」が五堂を有しています。

※仏像の窃盗が横行しています。仏殿から仏像等が無くなったらすぐに警察へ連絡してください。

		仁田原末庵		赤木末庵	
山号	庵号	地区	本尊	事項	
1	得度山	西光庵	杭野内	弥陀如来	(西方境外仏像) 佐伯四国五七番・五五番奥の院札所
2	愛敬山	東光庵	下地郎	薬師如来	(東方境外仏像)
3	常得山	慈眼庵	由来	観音菩薩	第十六世珍宗禅味和尚閑居の庵
4	證大山	無量庵	岸野上	弥陀如来	当初、四方庵に上げられていた。
5	採葉山	醫王庵	上野地	薬師如来	第十三世透隣祖寔大和尚(再中興開山) 閑居の庵
6	宝盈山	願王庵	黒沢	地藏菩薩	(南方境外仏像) 佐伯四国五五番札所
7	大悲山	明眼庵	湯野原	観音菩薩	佐伯四国五七番札所・五五番奥の院札所
8	安楽山	長原庵	長原	観音菩薩	延命庵と合祀
9	長遠山	延命庵	大鶴	地藏菩薩	長原庵と合祀
末庵外	薬師庵	内水	薬師如来	佐伯四国五七番奥の院札所、弘法大師作伝の本尊は焼失	
1	神明山	地藏院	吹原	地藏菩薩	
2	憐愍山	國清庵	吹原	弥陀如来	
3	金剛山	地藏院	吹原	地藏菩薩	
4	海潮山	観音庵	中津留	観音菩薩	佐伯四国五四番札所
5	遠難山	功休庵	知江	観音菩薩	
6	常得山	心光庵	知江	弥陀如来	佐伯四国五三番奥の院札所(厄除大師が安置されている)
7	轉輪山	常光庵	堂寺	薬師如来	佐伯四国五三番札所(本尊が十一面観音に代わる)
8	吉祥山	示眼庵	市屋敷	観音菩薩	天保十年に永田庵と合祀
9	福壽山	永田庵	栗林	釈迦如来	天保十年に清水庵と合祀
		上直見末庵			
1	光明山	清水庵	神野原	観音菩薩	
		下直見末庵			
	竹林山	観音庵	竹野下	観音菩薩	(佐伯四国五二番札所・江戸期には末庵外であった)
1	安穩山	西禅庵	岩井戸	弥陀如来	
2	善利山	護国庵	岩井戸	毘沙門天	(北方境外仏像) 毘沙門庵と改名され佐伯四国四九番札所

右に記した末庵は、宝暦年間(1751〜1763)に第十世真鏡和尚が墨筆して残したもので、事項にある「佐伯四国」は大正五年(1916)最近になって設定されました。また、栗林の永田庵は天保十年に神の原に移転され栗林当時の半鐘は正定寺の本堂にかかっています。

現存する直川の庵は、正定寺・専念寺・善正寺・養賢寺・洞明寺などの末庵でその全てが長年に渡り地域の信者や住民によって護持されてきました。正定寺の末庵でも大鶴の延命庵や間の毘沙門庵などでは、現在も住民が毎日ご仏飯を交代でお供えして数百年変わらぬ信心を続けています。

正定寺の歴史探究 過去帳と位牌堂

◆過去帳

正定寺に現存する最古の過去帳は「延宝二年（1673）」からのもので平成二十年（2008）年に至るまで大切に保存されています。

最初に記された戒名は寛永三年（1626）十一月十四日に亡くなった仁田原幸八先祖と在りました。

今から382年前です。

最古の過去帳には現在の「仁田原・上直見・下直見・横川・赤木」など大字で記載されていますが、苗字はいずれも記されていません。

その後、文化年間以降に小字の記載になり、尾浦・屋形島なども見かけるようになります。戒名は、仏門に入った証しです。亡くなって授かる現在の戒名も大切なご先祖の証ですが、生前の授戒は仏教徒にとってはこの上ないありがたいもので、正定寺でも百二十名を超える方々が生前授戒の「血脈（戒名）」が与えられています。

◆位牌堂

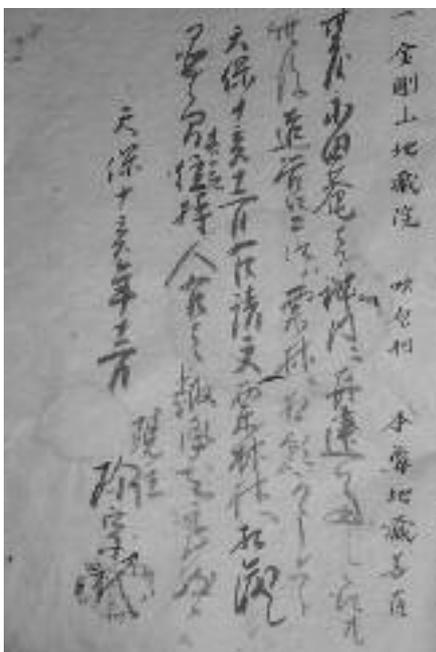
現在の位牌堂には、檀信徒の過去帳位牌が各家ごとに安置されています。

天正・元禄・宝暦・明治と四度の本堂再建のたびに位牌堂も移り変わり、祠堂諷経が行われて「日牌」や月命日にご回向を行う「月牌」の法要が行われています。

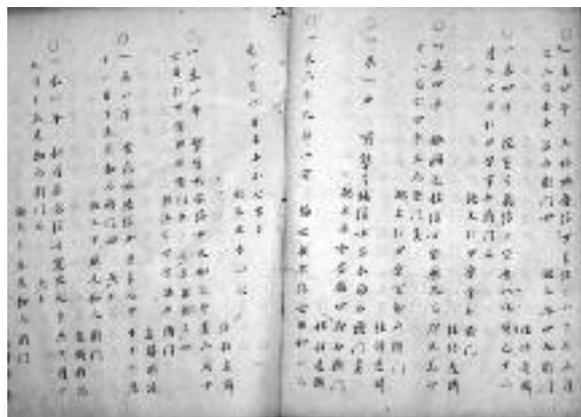
その諷経料が現在の「護持金」となっています。

大正十四年（一九二五）には、四間四方の「位牌回廊堂」が本堂裏に再建され、昭和四十八年（一九七三）に「大師堂」跡地に本堂裏から位牌堂を移転、全ての檀信徒が同じ位牌を念願として、観音さまの元に新たな位牌堂が建立されました。

安置されている各家の位牌には、亡き方の戒名や略歴・その家の成り立ちや人となりなどが遺族によって記されています。



天保十年（1839）の永田庵移転記載



宝暦年間の日牌・月牌記録



嘉永年間と安政年間の末庵記録



〈家族みんなで読みましょう〉

平成21年に迎える故人の年忌追善法要のご命日

平成21年に年忌を迎えるご先祖さまです。法要の期日は早めにお知らせください。

1回忌：平成20年 3回忌：平成19年 7回忌：平成15年 13回忌：平成9年
 17回忌：平成5年 25回忌：昭和60年 33回忌：昭和52年 50回忌：昭和35年

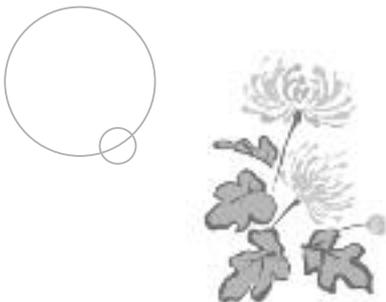
命日	当時の施主	故人	地区	年忌
2月25日	鉄山 昌美	フジエ	柚の原	7回忌
2月26日	御手洗晴視	マサエ	細川内	3回忌
2月27日	小野 正行	レイ	椈ヶ原	25回忌
2月28日	後藤 武視	辰 巳	立 長	1回忌
2月28日	櫻井 淳一	豊	大分市	3回忌
2月28日	鳴海 隆子	安五郎	尾 浦	33回忌
3月 2日	山内 正明	松 夫	吹 原	50回忌
3月 4日	御手洗晴視	勝 太	細川内	17回忌
3月 7日	甲斐 岩夫	シゲ	稲 垣	25回忌
3月12日	原 豊喜	六 男	岸の上	17回忌
3月13日	平井 正和	正	神 内	7回忌
3月14日	河野 林	逸	江河内	13回忌
3月17日	甲斐 昭郎	夏 夫	練 馬	25回忌
3月19日	安藤 昭彦	チズ	大分市	13回忌
3月21日	柳井 正視	角 治	中 道	33回忌
3月24日	松井 文生	ケサ子	岸の上	25回忌
3月30日	林 二郎	政 子	柚の原	13回忌
3月30日	小野 房子	貴一郎	内 水	25回忌
4月 1日	染矢 一也	重 信	柚の原	3回忌
4月 1日	井上 哲人	セイ	田 尻	50回忌
4月 2日	甲斐マツ代	操	神の原	17回忌
4月 9日	元田平八郎	トキ	海 崎	1回忌
4月10日	簀戸 展	サツエ	岸の上	3回忌
4月22日	羽明 忠義	信 俊	堂 師	17回忌
4月24日	飛田 和正	啓二郎	杭の内	33回忌
4月29日	鳴海 由久	誠	尾 浦	3回忌
5月 6日	岡部 信一	悟	豊 中	7回忌
5月 7日	工藤 哲生	けい子	下 城	3回忌
5月10日	久保田成太	新	大 鶴	1回忌
5月12日	柳井 則幸	忠 臣	市屋敷	17回忌
5月13日	鳴海 瑩子	久 幸	野岡町	7回忌
5月13日	星野 勝人	サカエ	久留須	13回忌
5月16日	高橋 忠男	スミエ	立 長	13回忌
5月16日	戸高 寿生	長生	岸の上	33回忌
5月25日	久保 田誠	ミサヲ	大 鶴	13回忌

命日	当時の施主	故人	地区	年忌
1月 3日	三宮 昌代	泰 雄	竹の下	33回忌
1月 4日	安藤 兼喜	サダ子	東海市	17回忌
1月 5日	小田 半男	雅 敬	上の地	13回忌
1月 6日	飛河 清水	安 義	間	7回忌
1月 7日	山畑 実	徹	岸の上	1回忌
1月11日	森神 喜伴	令 子	大阪市	3回忌
1月14日	鳴海幸太郎	ヨ サ	尾 浦	25回忌
1月14日	吉田慶二郎	時 蔵	田 尻	50回忌
1月17日	川野 剛	シヅ子	堂 師	1回忌
1月17日	大津 繁夫	豊	延岡市	25回忌
1月18日	泥谷 謹	清 子	蟻の崎	17回忌
1月19日	柳井 百人	主 税	市屋敷	1回忌
1月19日	仲宮 哲男	秀 子	稲 垣	50回忌
1月20日	安藤 美喜	シマ子	立 長	17回忌
1月24日	簀戸 猪文	貴野枝	岸の上	3回忌
1月24日	小野マキ子	セ キ	内 水	33回忌
1月25日	鳴海辰之助	香 織	尾 浦	7回忌
1月28日	小野 邦彦	デ ン	内 水	7回忌
1月29日	後藤 孝行	キ ヌ	立 長	13回忌
1月31日	郷原健一郎	幹 夫	八尾市	13回忌
1月31日	染矢 司	フミ子	柚の原	33回忌
2月 1日	戸高 寿生	宣 子	岸の上	13回忌
2月 1日	戸高 保	新 一	内 水	25回忌
2月 3日	井上 真澄	肇	池 船	33回忌
2月 5日	御手洗利美	康 夫	野岡町	1回忌
2月 5日	小野 常喜	松 子	久留須	13回忌
2月 6日	簀戸 猪文	武	岸の上	3回忌
2月 6日	飛田 幸平	勝 美	水 口	17回忌
2月 7日	長友 秀勝	明	女 島	7回忌
2月15日	谷崎 博文	義 雄	園	13回忌
2月17日	管 康子	行 雄	海 崎	13回忌
2月18日	廣瀬 駒男	理 一	立 長	17回忌
2月21日	鳴海 昭子	定 男	尾 浦	13回忌
2月23日	荒牧 忠義	フジ子	横浜市	7回忌
2月24日	渡辺 嘉雄	キミエ	倉敷市	1回忌

<家族みんなで読みましょう>

命日	当時の施主	故人	地区	年忌
9月14日	久保田和久	與	大鶴	17回忌
9月16日	小田木智通	フミ子	細川内	1回忌
9月16日	工藤 矢	常 佑	下 城	50回忌
9月21日	工藤 正幾	ケ イ	下 城	50回忌
9月28日	長田加代子	ヨシコ	明野南	17回忌
9月29日	鳴海雄二郎	辰之助	尾 浦	3回忌
10月 7日	矢野 俊行	晴 雄	中 道	1回忌
10月11日	御手洗沢吉	伊 吉	椈ヶ原	25回忌
10月15日	三浦 義男	フ ミ	大 鶴	13回忌
10月15日	曾根田 光	タマ子	高 江	17回忌
10月17日	御手洗佐一	タマ子	椈ヶ原	3回忌
10月20日	吉内 達也	武	江河内	1回忌
10月25日	川野 剛	眞治郎	堂 師	7回忌
10月26日	川野ツル子	香	大 鶴	50回忌
11月 1日	染矢 順一	篤	神 栗	13回忌
11月 5日	吉田 麗子	直 幸	園	13回忌
11月 6日	櫻井 孝	キ ク	岸の上	17回忌
11月10日	羽明 忠義	正 香	堂 師	13回忌
11月13日	山本 源義	源 作	尾 浦	25回忌
11月14日	簀戸 猪文	テル子	岸の上	1回忌
11月18日	安藤 征一	露 子	久留須	13回忌
11月18日	矢野 喜一	ラ ク	城南町	17回忌
11月22日	竹下 正	シ マ	竹の下	25回忌
11月24日	飛田 郁	正 巳	杭の内	13回忌
11月25日	立箱 光夫	小夜子	神 内	17回忌
11月26日	河野 逸	カ ツ	江河内	25回忌
12月 4日	染矢 朝子	薫	立 長	25回忌
12月 4日	三根 千鶴	林 礼子	佐 伯	1回忌
12月11日	佐竹 百人	カ メ	竹の下	33回忌
12月12日	原 豊喜	フミ子	岸の上	3回忌
12月16日	志賀 幸雄	キ ヌ	柚の原	25回忌
12月17日	小戸タマエ	成 夫	宇 目	7回忌
12月22日	橋本 弘重	ツ イ	上の地	33回忌
12月25日	五十川正人	岩 喜	横 川	13回忌
12月25日	飛田 芳雄	ウサエ	杭の内	25回忌
12月31日	吉田 昌子	弘	長 良	17回忌

命日	当時の施主	故人	地区	年忌
5月26日	平井 清源	すみ	大 鶴	25回忌
5月27日	簀戸 功吉	敏 子	久留須	1回忌
5月28日	林 美春	二 郎	柚の原	7回忌
6月 2日	佐脇 廣栄	茂 夫	杭の内	7回忌
6月 6日	簀戸 精一	チヨノ	中津留	33回忌
6月 7日	佐山 長利	シ ゲ	宇 目	33回忌
6月 8日	山口 直哉	義 一	柚の原	13回忌
6月 9日	川野 貴重	貴 一	野の内	33回忌
6月20日	守永 晃男	親 行	王子丸	7回忌
6月21日	後藤 武士	太 蔵	立 長	50回忌
6月22日	柳井 邦宏	美代子	大分市	3回忌
6月22日	廣瀬 利明	末 義	立 長	25回忌
6月24日	武田 逸雄	チエミ	大分市	33回忌
6月25日	小野 永生	シュン	江河内	7回忌
6月26日	河野 宏	ト ミ	延岡市	3回忌
6月27日	立箱 功	唯 義	立 長	17回忌
6月29日	簀戸 精一	種 夫	中津留	25回忌
6月30日	後藤 武士	カ 子	立 長	25回忌
7月 2日	富高 和夫	ユキノ	尾 浦	13回忌
7月 9日	渡邊 靖子	幸 則	中 山	3回忌
7月11日	甲斐 操	功	神の原	33回忌
7月13日	甲斐 辰巳	喜久恵	江河内	1回忌
7月15日	飛田 文男	タケ子	杭の内	13回忌
7月17日	染矢 定夫	徳 夫	柚の原	50回忌
7月19日	佐竹 信幸	百 人	竹の下	17回忌
7月25日	鳴海吉三郎	九 一	尾 浦	33回忌
7月28日	吉良山由美	重 士	弥 生	1回忌
7月28日	御手洗 孝	フキエ	常磐南	13回忌
7月29日	櫻井 有一	スギ子	岸の上	25回忌
8月 1日	園田和可子	ツヤ子	上の地	1回忌
8月 3日	竹中サツキ	一生	竹の下	33回忌
8月 5日	植田 純市	加津美	上の地	3回忌
8月 7日	武田 敏秋	義 美	栗 林	13回忌
8月 8日	染矢 和陽	國 喜	鶴岡町	7回忌
8月14日	森下 満	シゲ子	栗 林	50回忌
8月15日	山田 桂子	タマコ	尾 浦	1回忌
8月17日	櫻井 幸	ヨシエ	岸の上	50回忌
8月18日	廣瀬 謙治	駒 男	立 長	3回忌
8月22日	大村 政夫	政 蔵	竹の下	50回忌
8月24日	御手洗利美	シズエ	野岡町	1回忌
8月30日	吉田 直幸	サツキ	園	13回忌
8月31日	簀戸 春生	イ シ	岸の上	7回忌
9月 2日	鳴海幸太郎	久 松	尾 浦	50回忌
9月 3日	三浦 弘	徳 蔵	大 鶴	50回忌
9月10日	高須賀博志	芳 包	千 葉	1回忌
9月12日	山田 桂子	箴	尾 浦	7回忌



<家族みんなで読みましょう>

総代改選のお知らせ

平成十五年から現総代により正定寺護持運営が行われて参りましたが、二期目（二期三年）が平成二十一年に改選期を迎えます。

任期中には林一人総代のご逝去や先住職の遷化、また位牌堂改築・倉庫の建築など檀信徒と共にご尽力をいただきました。

年明けの大本若会（定例檀信徒総会）で新総代のご承認とご報告を行いたいと思っております。（既に、臨時世話人総会で新総代のご推薦・選出の審議をいただいております）

大本若会のご案内

来る一月二十日（火）午前十一時より大本若会を執り行います。高齢者やお体がご不自由な皆さまの為に、当日は仁田原公民館前にタクシーが配備されています。

正定寺への登り降りにご利用ください。

また、横断歩道の無い場所での往来は危険ですので、国道横断時には必ず横断歩道を利用してください。

世話人 任期満了のご案内

地区世話人さまの中で今年度に任期（一期三年）を迎える方は、平成二十一年三月三十一日までお世話を頂き、新世話人さまは同年四月一日よりお願い致します。

平成二十一年度の定例世話人総会は新世話人さま臨席により六月に行いますので、世話人交代の地区は新世話人さまの名簿を三月までに正定寺へお知らせください。

（※地区檀徒数によって任期が違う地区があります）

また、世話人さまの選出において、現在「総代・花園会役員」でお世話を頂いています檀信徒は除外してご選出ください。

護持金入金について

平成二十年十月より、地区世話人さまによってお世話を頂く護持金が郵便局ATMでの利用となりました。

尚、直川外（村外扱いなど）の皆さまは例年通りの郵便振り込み（一括）です。

※送付しています「払込取扱表」でお願い致します。

徒弟の掛搭

当山の徒弟である南陽（僧名）が正定寺歴代和尚の拝塔を終えて、九月二十七日、京都相国寺専門道場へ修行のため上洛いたしました。

僧名である「南陽」という名は、先住職の豊嶽義弘和尚が生前に命名して授けたものです。

今年のお盆には、剃髪して各檀家さんのご先祖へ住職共々お参りをさせて頂きました。

今後、数年は京都で修行し



て専門道場の都合にもよりますが年二回の暫暇（帰省）には正定寺の法要にも僧侶としてお参り出来るのではないかと思っています。

花園会女性部 ボランティア活動

九月二十一日に行われた「秋彼岸山門大施餓鬼」に伴って女性部より「直川苑」にタオルが送られました。花園会女性部のボランティア活動はご本山妙心寺の【おかげさま運動】の一環として、県下老人施設への訪問や直川苑への「梅干し」提供など十五年以上続いています。

今回の訪問は毎年行われている活動で、女性部会員七十名から集められた「タオル」を花園会女性部役員が施設入居者へお渡しいたしました。



やっがいなまの

「スズメバチ」が境内を飛び回り、山門で梵鐘を撞くと音に反応してかかってくる。境内墓地には、お供えしたジュースなどに群がって参拝者に襲いかかる。実にやっかいなものです。巣を見つけたのだが、高くて容易に退治出来ない。結局、専門家に来てもらって一網打尽にした。



《正定寺花園会役員名簿》

- 花園会会長（檀徒総代） 柳井 道則
- 花園会役員（檀徒総代） 小野 永生
- 花園会役員（檀徒総代） 柳井 孝義
- 花園会役員（檀徒総代） 甲斐 照光
- 花園会役員（檀徒総代） 村西 栄二
- 花園会会計・事務局 矢野 侃可
- 花園会女性部部長（第二部女性部副部長） 竹下 好子
- 花園会女性部副部長 安藤リヨ子
- 花園会女性部副部長 川野久美子
- 花園会青壮年部長 小田木聖孝

《正定寺花園会地区世話人名簿》

- 内水地区 戸高 浅生 栳杭地区 御手洗 哲
- 岸の上地区 櫻井 孝 上の地区 小野美智治
- 細川内地区 長田小太郎 柚の原地区 岡田 喜敏
- 黒岩地区 小野 力 大鶴地区 久保田キヨエ
- 羽木蟻地区 大竹 良一 神の原地区 鴨尾 利夫
- 神栗地区 平井 均和 市屋敷地区 柳井 則幸
- 堂師地区 阿部 英治 野の内地区 川野 貴重
- 立長地区 安藤 美喜 中道地区 安藤 健辞
- 吹原地区 高橋 慶太 久留須地区 大司 八郎
- 竹園地区 吉田 禮子 醍醐津留地区 簗戸 精一
- 江河内地区 甲斐 典昭 尾浦地区 木下保治郎
- 佐伯地区 仲宮 哲男

- 花園会会計監査委員 御手洗 哲
- 花園会会計監査委員 阿部 英治
- 花園会女性部会計監査委員 久保田 キヨエ
- 花園会女性部会計監査委員 小野 明美

秋彼岸山門大施餓鬼へ大勢の参拝者

九月二十二日に毎年行われる「秋の彼岸」で供養数六百霊・特別供養十家の法要が十名の和尚さまを迎え盛大に行われました。

本堂には五色で荘厳された山門施餓鬼法要に百名を超える檀信徒がお参りいたしました。

この、山門施餓鬼は一霊の戒名を三度書いて法要中に読み上げます。

一度目は檀信徒が仏壇の位牌から戒名を「山門施餓鬼供養袋」に記します。

二度目は供養された戒名を水塔婆（経木塔婆）に書きま

す。三度目は法要中に読み上げる為の戒名を書き出します。

亡き人の戒名が人の手によって三度も記されています。

十三年前から行われるようになった女性部によるこの法要は、亡き最愛の人へ菩提追善の思いを届け、幾度も幾度も呼びかけ手を合わせる皆さんと同じように何度も戒名を書き写す法要です。

（今年から、県外の皆さまにもご案内しています）。

No.	地区名	檀家数	供養檀徒数	供養霊位数
1	内水	9	8	17
2	椀杭	18	15	31
3	岸の上	19	19	31
4	上の地	16	11	17
5	細川内	10	7	15
6	柚の原	14	10	22
7	黒岩	5	5	11
8	大鶴	19	19	34
9	羽木蜷	4	2	4
10	横川	3	3	7
11	神の原	9	7	11
12	神栗	17	16	31
13	市屋敷	10	9	16
14	堂師	14	14	28
15	野の内	5	5	13
16	立長	12	12	25
17	中道	11	11	21
18	吹原	6	5	11
19	久留須	21	21	44
20	川又	4	4	10
21	竹の下	11	9	25
22	間庭	8	8	10
23	江河内	12	8	16
24	尾浦	20	16	36
25	村外	122	59	114



檀信徒が書き記す戒名



水塔婆に書き写された戒名



法要中に唱えられる戒名

<家族みんなで見ましょう>

秋彼岸山門大施餓鬼



施餓鬼棚に供えられた餓鬼飯



「檀家之霊」の供養膳



参拝者



参拝者



戒名を読み上げる梅南寺和尚さま



水向けする和尚さま



龍護寺和尚さま・瑞祥寺和尚さま



回向する長昌寺和尚さま

〈家族みんなで読みましょう〉

正定寺権門駕籠

けんもんかご

この権門駕籠は江戸期に造られたもので、鶴谷城（藩主毛利公）への登城や寺院の行事、また篤志檀家の葬儀などに使用された道中駕籠です。

両側面には正定寺の定紋である「鞠鉢みに左り三つ巴」と「五三の桐」の表紋の二つの紋が記されています。定紋は、駕籠が正定寺住職のお駕籠で在ると人目で特定出来るように造られた貴重なもので、当時の正定寺と寺院の寺格を示す上で重要な文化財となります。

一般の家紋は一つですが直川でも平井家（藩医）など二つの紋を使用している旧家も在ります。表紋の「五三の桐」は代表紋なのか、あるいは略式紋として使用されたものかは定かではありません。

この駕籠を最後に使用したのは、昭和四年（一九一九）七月の林宇三郎氏の葬儀で當山第二十一世千巖和尚が道中に使用したのが最後と記されています。それ以前にも篤志者の葬儀へ出向いた話も伝わ

っています。それ以前にも篤志者の葬儀へ出向いた話も伝わ

っています。

駕籠で出向く葬儀を「お駕籠招待」とか「お駕籠あつらえ」などと言って昔の人は「うちの先祖は、駕籠招待をした」とか「先祖が駕籠をあつらえた」と信仰心の篤さを誇らしげに語っていました。

現存する最古の寄附帳である第十三世透隣和尚が記した宝暦十一年（一七六一）祠堂日誌の中に「地藏菩薩像」を寄進した佐藤与三兵衛を初め、小屋敷茶畑を寄進した小野六右衛門など現在の正定寺宝物や什物などが細かく記されている書物もあります。文化・嘉永・明治時代の各歴代和尚が残した寄附帳にも、駕籠の由来を知り得る記載がありません。

本堂の天井につられ約八十年間保存されていました。駕籠も老朽化したので、檀信徒の発願と篤志者のご信援で修理が行われました。

駕籠の正面にある菊のご紋の裏板から「万延元年七月

云々（一八六〇）となぶり書きされた」ものがあらわれましたが、その年に造られたのか、或いは修理されたのかは判りません。

十六弁の菊紋は、正定寺では「大般若理趣分経」や「御繪旨」にも同じく施されています。

【外装仕様】

- 一、本体黒漆塗り、蝶番金具
- 二、銅・真鍮仕上げ
- 三、菊の御紋（前後十六弁八重菊・周囲六十四弁）

- 三、天井跳ね上げ絡繰り片開き
- 四、扉左右両面引き戸開き
- 五、簾（すだれ）正面左右三方巻上開き
- 六、轆（ながえ）吊り金具天板に二方所

【内装仕様】

- 一、座席（畳半帖一名乗り）
- 二、窓（正面上・両横左右障子開き二筋）
- 三、座布（左右肘掛け・背部あて）
- 四、前机（跳ね上げ式・損壊）

【寸法仕様】

- 一、轆（ながえ・担ぎ棒）全長四二四、二センチ（一四尺）
- 二、駕籠（かご）全長一一〇、〇センチ（三尺九寸六分）全幅七三、八センチ（二尺四寸四分）全高屋根部まで八八、〇センチ（二尺九寸）全高轆部まで一〇二、五センチ（三尺三寸八分）
- 三、人力担ぎ手前後二名（計四人仕様）



修理された権門駕籠



こちらは道具駕籠

〈家族みんなで見ましょう〉



▲ 修理前のかご



▲ 修理後のかご

修理後の正面▶

▼ 修理前の正面



▲ 修理前の室内



◀ 修理後の室内



修理前



修理後

〈家族みんなで読みましょう〉

開山650年遠諱法要記念花園会 全国大会に参加して

12月5日より2泊3日の日程で「開山650年遠諱法要記念花園会全国大会」に佐伯市各寺院の役員20名の方々と共に参加させていただきました。

5日に大分港より2月に竣工した新船ダイヤモンドフェリーで出発して快適な船旅を満喫。6日早朝神戸港に着き一路京都へ向かいました。

最初の参拝は、妙心寺と同じ禅寺の金閣寺へ、下漆に金箔のきらびやかな2層・3層の建物や水面に反射して映る金閣寺池など庭園は世界遺産に登録されています。ちよつと紅葉はすぎていましたが落葉も絵になる光景でした。

その後は都路を走り会場の国立京都国際会館へ、「京都サミット」も開催された会場は1700人が一同に食事ができるほどでその大きな会館にはおどろかされました。

大会1部の行事では、開

山遠忌法要が行われ管長さまのご挨拶や記念式典表彰式と続き、2部では京都出身の「バチ・ホリックス」の太鼓演奏に「西川きよし氏の講演」最後に「千本えんま堂」の狂言で無相大師（慧玄和尚）が妙心寺を開く

前の物語が演じられ、大変おもしろく見物できました。7日は、寒い朝でしたが二条城の見学をして、大本山妙心寺にお参りしました。

広大な山内に46の塔頭寺院が点在し、日本最大禅寺にふさわしい偉容をほこり多くの重要文化財に驚かされました。文化財の絵は狩野派で京狩野派・江戸狩野派と有りますが、妙心寺は京狩野派の公家風をおおく用いていると聞きしみじみと堪能することができました。その後は、最後の紅葉狩を楽しもうとする大勢の観光客でにぎわう嵐山を散策しました。

あつという間の3日間でしたが、私達のより所であ

る妙心寺の拝観時間が思うようにとれなかったのが心のこりでしたが、もう一度機会があればゆつくりお参りしたいと思います。

来年10月には開山無相大師650年遠忌法要で檀信徒参拝が計画されています。ぜひお参りをお勧めしたいと思います。

私にとって初めてのご本山妙心寺へのお参りは感動の連続でした。

合掌
正定寺総代 柳井道則



妙心寺の法堂と山門



妙心寺の開山堂前



金閣寺をバックに矢野女性部長さんとのスナップ

〈家族みんなで読みましょう〉